

== 直 播 情 報 (第 5 号) ==

令和元年 7 月 8 日
農業技術課 広域普及指導センター

1 湛水土中直播栽培（カルパー）

(1) 生育状況

平年に比べ、草丈、葉齢、葉色は並み、茎数は多くなっている。

葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は平年並み、茎数は多くなっている。

今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期は平年並みの 7 月 16 日頃と見込まれる。

表 1 7 月 8 日現在の生育状況（湛水土中直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
R元	5/2	65.6	642	10.5	4.0	(7/16)
H30	5/1	65.3	542	10.6	4.0	7/15
平年	5/2	63.4	558	10.5	4.0	7/16
前年比・差	1	100	119	-0.1	0.0	(1)
平年比・差	0	103	115	0.0	0.0	(0)

注1) 平年は21～30年の平均値

注2) 本年の幼穂形成期は予測値

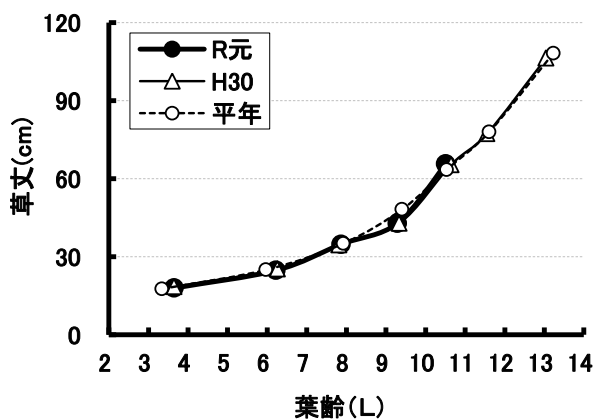


図 1 草丈の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

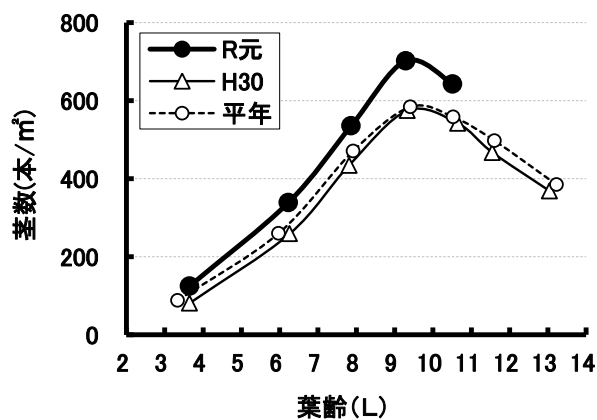


図 2 茎数の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

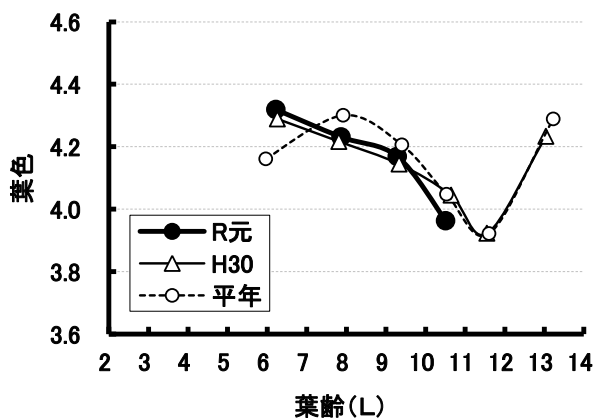


図 3 葉色の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

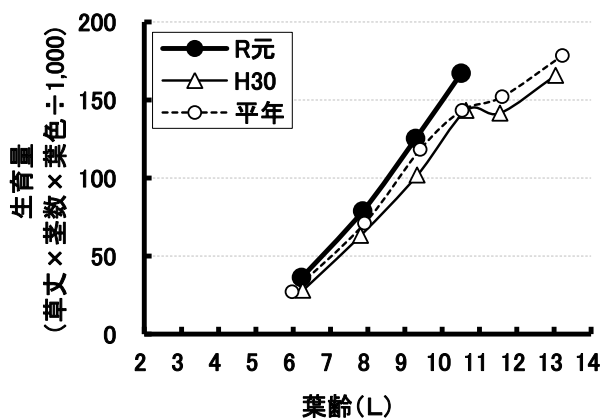


図 4 生育量の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

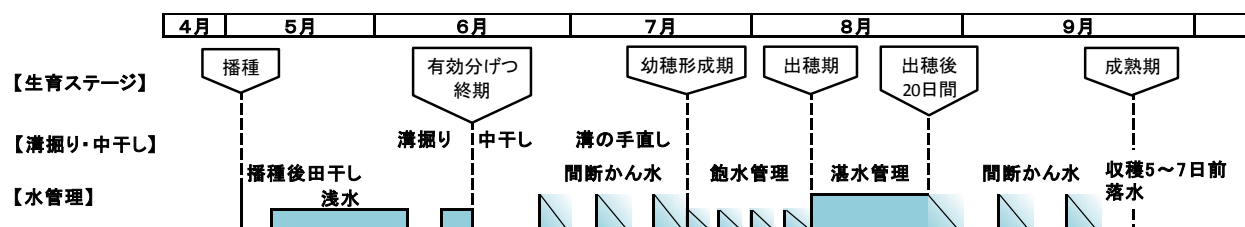
(2) 当面の技術対策

- ・ 間断かん水を行い、幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3cm 程度の土壌硬度に誘導する。ただし、葉色を維持するため、ほ場が乾き過ぎないように注意する。
- ・ 幼穂形成期以降は、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。

① 生育に応じた水管理の徹底

- ・ 中干し後は間断かん水を行い、幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3cm 程度の土壌硬度に誘導する。ただし、葉色を維持するため、中干し後の間断かん水は、ほ場が乾き過ぎないように管理する。
- ・ 幼穂形成期以降は、稲体の水分要求量が高まるので、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。

<水管理のイメージ>



② 病虫害防除の徹底

<カメムシ類>

- ・ 畦畔等における斑点米カメムシ類の確認地点率は平年より高くなっている。
- ・ カメムシ類の密度を低く抑えるため、早急に畦畔等の草刈りを徹底する。
- ・ 本田内のノビエやホタルイは、アカスジカスミカメの侵入を招き、斑点米被害を助長するので、除草に努める。

<紋枯病> ※平年の初発確認日：6月23日 (R元：6月26日)

- ・ 前年多発したほ場や「てんこもり」では、粒剤の場合は出穂3～4週間前、粉剤、液剤等の場合は品種毎の薬剤散布適期に、確実に防除を行う。その他のほ場では、要防除水準を参考にし、必要に応じて適期に防除を行う（表2）。

表2 紋枯病の薬剤散布適期（防除要否判定時期）と要防除水準

品 種	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)	要防除水準 (発病株率)
てんたかく	出穂14日前頃	5%
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%
てんこもり	出穂7日前頃	15%※

※「てんこもり」は基本防除とする。発病株率は追加防除の目安（暫定値）。

<いもち病> ※平年の葉いもちの初発確認日：7月6日 (H30：未確認)

- ・ 県内では、7月1、5日にいもち病の感染好適条件がみられたので、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

BLASTAM 情報（葉いもち予測システム）HP の URL

http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/link_flat.phtml?TGenre_ID=314&t=pdf2

2 湛水表面直播栽培（鉄）

（1）生育状況

近年に比べ、草丈、茎数、葉齢は並み、葉色はやや淡くなっている。

葉齢を揃えて比較すると、近年に比べて、草丈、茎数は並み、葉色はやや淡くなっている。

今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期は平年並みの7月18日頃と見込まれる。

表3 7月8日現在の生育状況（湛水表面直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
R元	4/30	62.5	602	10.9	4.0	(7/18)
H30	4/30	63.4	636	10.9	4.3	7/17
近年	5/1	60.4	602	10.9	4.2	7/18
前年比・差	0	99	95	0.0	-0.3	(1)
近年比・差	-1	104	100	0.0	-0.2	(0)

注1) 近年は26～30年の平均値

注2) 本年の幼穂形成期は予測値

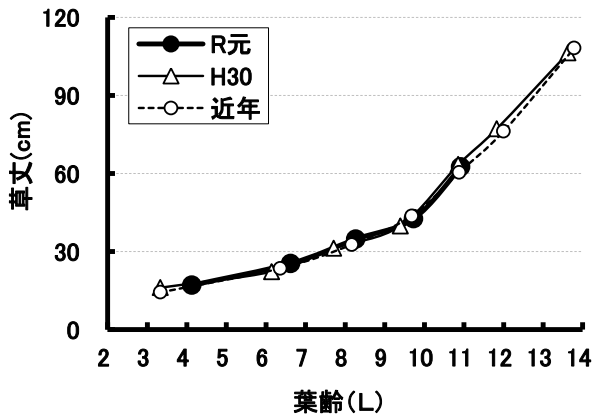


図5 草丈の推移（湛水表面直播コシカリ）

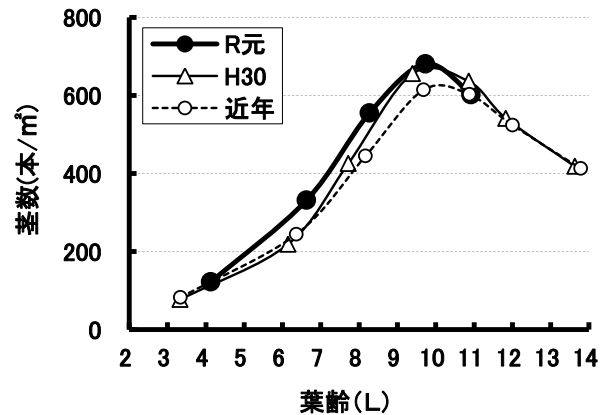


図6 茎数の推移（湛水表面直播コシカリ）

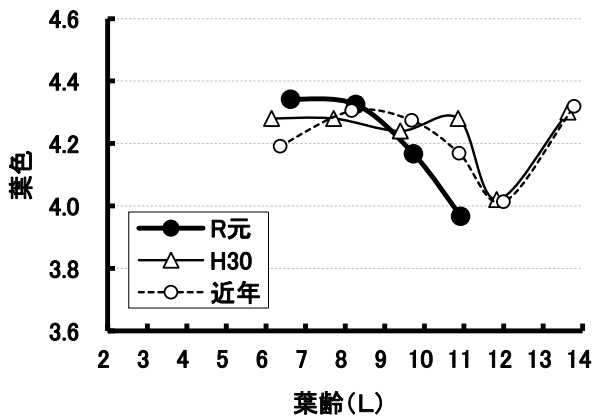


図7 葉色の推移（湛水表面直播コシカリ）

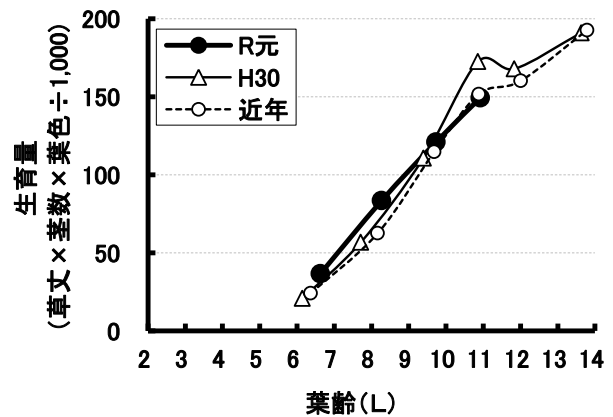


図8 生育量の推移（湛水表面直播コシカリ）

（2）当面の技術対策

水管理および病虫害防除は、湛水土中直播栽培に準ずる。

3 乾田 V 溝直播栽培

(1) 生育状況

平年に比べ、草丈はやや長く、茎数は多く、葉色は淡く、葉齢は 0.5 葉多くなっている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べて、草丈は並み、茎数はやや多く、葉色はやや淡くなっている。

今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期は平年より 3 日程度早い 7 月 17 日頃と見込まれる。

表 4 7 月 8 日現在の生育状況 (乾田 V 溝直播栽培コシヒカリ)

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
R元	4/19	61.8	601	10.1	3.8	(7/17)
H30	4/19	64.6	565	10.1	4.1	7/17
平年	4/22	58.8	542	9.6	4.1	7/20
前年比・差	0	96	106	0.0	-0.3	(0)
平年比・差	-3	105	111	0.5	-0.3	(-3)

注 1) 平年は21~30年の平均値

注 2) 本年の幼穂形成期は予測値

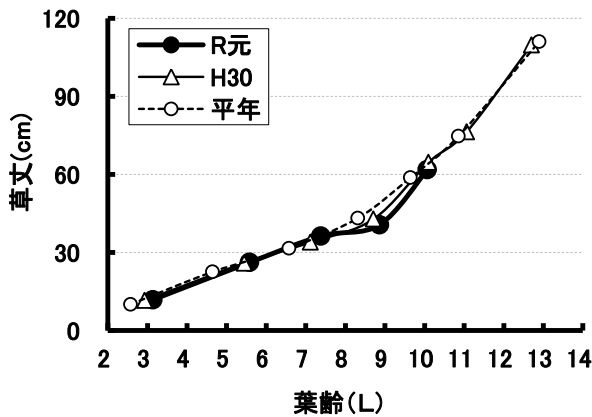


図 9 草丈の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

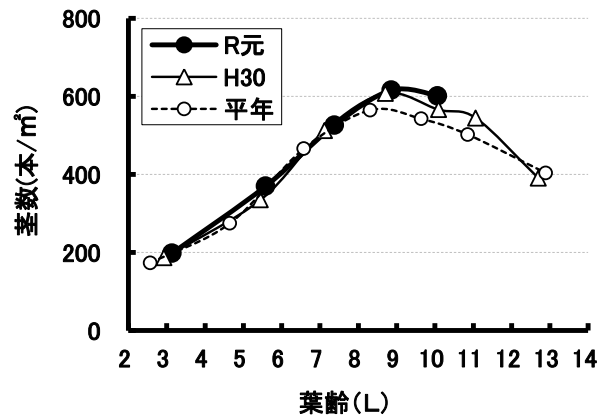


図 10 茎数の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

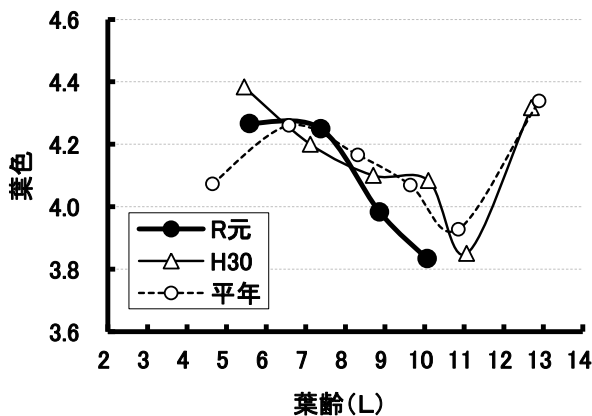


図 11 葉色の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

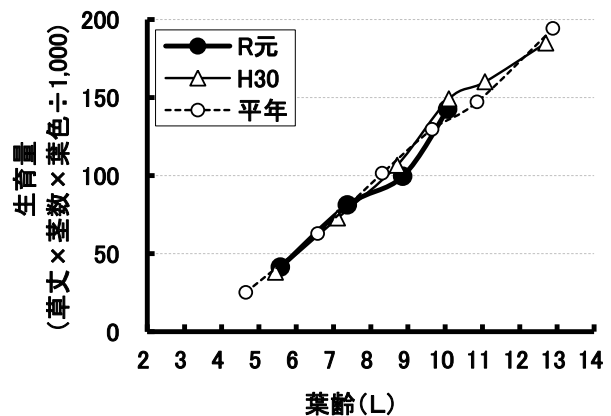


図 12 生育量の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

(2) 当面の技術対策

今後、成熟期の 1 週間程度前まで、深水管理を徹底する。

葉色が淡い場合においても、今後、肥効調節型肥料の穂肥相当成分が溶出するため、深水管理を行うとともに、安易な追肥はしない。

病虫害防除は、湛水土中直播栽培に準じる。